よこはま動物園におけるモルモットの診療記録を用いた後ろ向き研究

○福島　志織
（横浜市立よこはま動物園）

モルモットはペットや実験動物，動物園でのふれあいなど様々な用途で飼育されているが，疾病の発生傾向の研究はペットでの報告に限られている。本研究では，よこはま動物園でふれあいに使用しているモルモットの疾病の発生傾向を調べた。過去の診療記録を用いて疾患および死亡原因疾患の発生部位と原因を分類し、解析を行った。平均死亡年齢はペットにおける報告よりも高く、ふれあい使用が死亡を早める可能性は低いと考えられた。疾患を発生部位別に調べると皮膚疾患が最も多く、次いで泌尿器疾患が多かった。平均死亡年齢および泌尿器疾患の割合がオスよりメスで高い結果は、過去の報告と一致した。外部寄生虫疾患は過去の報告より少なく、導入時の検疫等による適切な予防の可能性が考えられた。死亡原因疾患を発生部位別に調べると消化器疾患が最も多く、次いで泌尿器疾患が多かった。腫瘍性疾患はメスで多い傾向が認められ過去の報告と一致した。